

令和6年度第1回大船渡市スポーツ推進審議会

日 時 令和6年5月9日(木) 午後2時～午後4時30分
場 所 シーパル大船渡 2階会議室
出席者 大船渡市スポーツ推進審議会委員 6人
新沼良治会長、東芳江副会長、栗村安弘委員、谷山誠志委員、渡邊千鶴委員、
渡辺信子委員
大船渡市
協働まちづくり部長、生涯学習課長、生涯学習課長補佐、スポーツ推進係

〔会議内容〕

1 開 会

2 会長及び副会長の選任について

会長に新沼良治委員、副会長に東芳江委員を選任した。

3 協 議

第1号 大船渡市スポーツ推進計画中間見直し（案）について

事務局より、資料1のとおり説明した。

〈結論〉

原案のとおり了承した。

〈意見・質疑応答〉

- ・ （新沼良治会長）資料の1、1ページ3計画の期間の赤字の部分について、質疑、意見等はないようなので、一部見直しを行うということで了承とする。
- ・ （新沼良治会長）2ページから調査現状の報告のとおりということで、了承とする。
- ・ （新沼良治会長）21ページのスポーツ合宿の誘致とあるが、誘致の状況はどうなっているか。
→ （生涯学習課長）23ページの（2）の下段、大船渡市スポーツ合宿支援補助金の対象団体数、人数の表記のとおり、令和元年度当初はなかったが、令和4年度の間の実績値としては、2団体、105人となっている。目標値は5団体、250人としている。
- ・ （新沼良治会長）これのメリットは何か。
→ （生涯学習課長）市外からの大船渡市への宿泊、飲食による経済波及効果がある。大船渡市を知って、好きになっていただくといったファンを増やしていくような広がりにも期待している。
- ・ （新沼良治会長）地元の子供たちや練習試合をする学校の生徒たちにも好影響がある旨の記載があってもよいと思う。
- ・ （東芳江委員）④の近隣自治体との連携で、いろいろな参考資料があるが、そちらのほうに近隣の他市町村の資料が比較材料としてあれば、参考になるのではないかと思いますので、大船渡をこれから向上させていくためにも、そちらがあったほうが良いと思う。
→ （生涯学習課長）近隣市町村に例えば陸前高田市は、スポーツ施設にもかなり力を入れていて、素晴らしい施設もあるので、こういった計画にも盛り込めるか今後検討していきたい。

- （生涯学習課長補佐）今回の計画は、大船渡市のスポーツ推進計画なので、あくまで本市の現状と課題について挙げているもので、委員のおっしゃる意見も分かるが、今回は、このデータだけで、他市のデータまでは掲載できないところである。
- ・ （栗村安弘委員）私はバレーボール協会では会長を務めている。近隣市町村との連携というところで、昨年度ポートサイドバレーボール大会が開催されて、その際に二市一町の協会の連携がとれている。二市一町にある施設を使って連携していくことは、割と協会同士では実績がある。昨年大会をやってみて、今年も連携する方向でいくという話が進んでいる。バレーボール協会に限らず、他の協会でもできないことではないことと認識している。先日スポーツ協会の4役会の話の中で、なかなか施設を新しくするのは無理だということで、ここでは、市民体育館の老朽化に伴ったとか、震災後はいろんな形で空調もつけたり、施設は良くなっているが、一つ早急にお願いがあって、やはり来ていただいたアスリートの方々なり、子供たちなり、控室付近の雨漏りがひどくて、バケツを置かなければならない状態だということで、生涯を通じてスポーツに親しんでもらって、継続して将来を担う子供たちにも使用してもらおうとなれば、施設が充実したもの、現在あるもののの中で、充実を図れるようなものがあれば、なおいいのかなというところで、雨漏りだけはなんとかと思っている。
- （生涯学習課長）資料にも記載のとおり、ポートサイドバレーボール大会は、まさに広域連携の好事例として捉えている。これは別の競技にも広げていきたいということで、今回このように記載している。市民体育館に限らず、市の施設にも雨漏りの問題があるので、できることから修繕、改善に取り組んでいきたい。
- ・ （谷山誠志委員）18 ページで、スポーツ施設の満足度のアンケート結果があって、約2割の人は満足だというのが、7割の人がそう感じていないということで、アンケート結果を受けて事務局側はどう考えているのか。
- （生涯学習課長）近隣で大きな立派な施設が建ったりとの比較もあると思うが、非常に重く辛く受け止めている。
- ・ （谷山誠志委員）これから、市営球場、体育館、テニスコート、プールの問題に取り組んでいくと思うが、どの施設も古くて、十分満足できない施設である。合宿の誘致といっても、宿泊する施設もいろいろと考えて、ちょっと難しいと考えているが、今の件を重く受け止めたならば、早くなんとか、予算がないでは何も進まないの、他の市町村では、予算がなくてもやっているような気がする。だからその辺もスピードアップを図ってほしいという要望である。
 - ・ （新沼良治会長）私もスポーツ関係者であるので、こういった数字は問題ないなと思いつつ、いつも見ている。アンケートを取った場合、スポーツをする人、しない人から一緒にアンケートをとると、だいたいスポーツをやらない人は、関係ないという回答とか、何らかの形でスポーツをする人は、前向きな回答だという結果が出るのかなとしたりしている。大切なのは、掘り起こし、動機付け、それをいかにやっていくのかというあたりが、あまりスポーツに向かなかった人たちとか、あるいは興味付けるためには、必要なのかなと考えている。
 - ・ （渡辺信子委員）20 ページ、①子どもの体力づくりに着目していて、やはり体力テストを毎年行うのだが、学年によって得意不得意な部分が出てきていることを実感している。学校の授業の中でも、体育の授業が大好きというので、体育の学習の中で体を動かす時間を確保できるようにということで、担任の先生方も学習の仕方について、日々研修をしている。小学校の場合は、市内陸上記録会が毎年9月に行われるが、今年も9月の末に三陸総合運動公園で行う予定になっている。そこで本番をするに当たって、事前

の練習日も設けている。その練習日に練習ができるように予定も組んでいるが、実際に使用しているのは、綾里小学校しかない。理由は交通費がかかってなかなか現地練習にまで行けないというところである。近年子供たちが減少している中で、様々な物価が上がっていて、どの学校も一番の問題がバス代が非常にかかることが、いつも小体連の評議委員会の理事会での話題になっている。学校のほうでも様々なやりくりをしながら、そこのお金を捻出しているところだが、やはり臨時練習をさせたいがお金がないから連れていけないとか、本番も拘束時間にかかわってお金に差が出てくるとか、そういう問題があって、学校側で毎年悩んでいるところなので、子どもの体力づくりとか、いわゆる生涯にわたるスポーツの推進というところで、今の子供たちの現状という部分について、いろいろと理解をしていただいて、市として何か方法を一緒に考えていただければなと思っている。

- （生涯学習課長）貴重な現場のご意見で、ありがたいと思っている。確かに子供たちの数が減って、学校行事もそうだし、部活動もチームを組めなかったり、新たな課題が出てきている。市としても、こういった新たな課題については、その受け皿となる地域移行ということで、すぐには移行はできないとは思いますが、様々な関係団体と話をし、持続できる部活動の方策について、市役所内部でも教育委員会と一緒に考えている。陸上記録会については、貴重なお話をいただいたので、それも併せて何ができるか考えていきたい。
- ・ （渡邊千鶴委員）先ほどのスポーツ施設の満足度のことで、施設整備がされていて利用しやすいかという部分もあるかと思うが、施設によってその日の管理人にもよるところがあって、使いづらいというところが結構、やっているほうとしてはあって、小さい子供がいる中で、スポーツを楽しみたいという人たちもいて、小さい子たちを連れてくると、その辺を走り回ったりもして、大人はそれを見越して練習をしているが、そういうふうなことを良く思っていない管理人もいらして、いろいろと言われると、施設に来づらくなるという部分も出てきたり、後は資料の後半に予約のことで、今検討しているが、毎月1日に次の月の予約をするが、ログインしてもエラーになったり、1個30分ずつ予約していくのだが、1個予約するとまたエラーになったりということで、なかなか自分が希望するところにちゃんと予約することができないことが続くということがあったので、そういう面も改善していただければ、もう少しやりたいなという人が増えてくるのかなと思っている。
- （生涯学習課長）DXということで、市としても、庁舎窓口もそうだし、Web予約であるとか、キャッシュレス決済であるとか、いろいろな施設で取り組み始めている。委員のおっしゃるとおり、なかなか軌道に乗らないというか、システムが利用者の思うように機能なくて、なかなか不安定でというお話はいただいている。スポーツ施設については、指定管理者とともにサービスの向上について、只今いただいたご意見も含めて、改善していきたい。
- ・ （新沼良治会長）施設の利用については、管理人の方々は、きっちり仕事をしようとして、かえって使いづらいと思われるというケースも多々あるので、その辺りのご指導もよろしくお願いできればと思う。
- ・ （栗村安弘委員）今のご意見で、参考までに伺いたいのだが、どういったスポーツをされていての、子供の話だったのか。
- ・ （渡邊千鶴委員）大人がバスケットボールをしていて、子供たちがその辺を走り回ってという話で、借りているコートの中でのことだが、子供たちが持ってきたボールで遊んでいたりとすると、危ないという指摘であった。コート半面でバスケをして、反面を子

供たちに使わせている場合でも、大人のほうに子供たちのボールが入ったら、どちらも危険だという指摘もあった。テニスコートを使用しているときも、鍵の返却の仕方とかということでも、ある一定の人なのだが、だから市民テニスコートは使いづらいよねという話も聞いている。4月の人事異動で人が入れ替わったようなので、その辺はどうか分からない。

- ・（栗村安弘委員）余計なことかもしれないが、スポーツ協会でもいろんな形で管理人をお願いしているようだが、その中では、一カ所に一人を固定ではなくて、複数人で各施設を回すようなローテーションを組んでやっていく体制だと聞いている。子供が親のスポーツ姿を見て育つのであって、その子供の機会を抑制されることにもなるとも考えられるので、推進審議会からすると、改善すべきは改善していかなければならないので、貴重なご意見として承知した。
- （生涯学習課長）市役所だとか公共施設に、そういったご意見をいただく箱が設置されているので、やりづらい部分はあるが、細かいことでも結構で、改善できる部分だと思うので、活用願いたい。HPでもご意見を募集しているので、何かあったらご利用いただきたい。
- ・（渡邊千鶴委員）それについて、私はこの場に来ているから意見も言えるが、一般の方は、諦めではないが意見を言ってもしょうがないみたいなことが、最初に来てしまっている感がある。
- （生涯学習課長）利用の周知に努める。
- ・（新沼良治会長）先ほど①子どもの体力づくりの話をしたが、②働き手世代のスポーツ機会の充実、③高齢者・障がい者スポーツの推進とあるが、やはりコロナ禍で、人々が外に出なくても、参加しなくてもいいのだということを覚えたということを新聞報道やテレビでよくやっている。事実私が住んでいる立根町でも老人クラブの方々が、参加が減ったとか、出てこなくなったとか、いろいろと聞こえてきている。可能な範囲で、結構大変な仕事かと思うが、よろしく願いできれば思う。
- ・（新沼良治会長）21 ページまではよろしいということで了承とする。
- ・（新沼良治会長）22 ページ、23 ページの基本理念、基本方針の赤字のあたりもご意見がないようなので良いものとして了承とする。
- ・（新沼良治会長）24 ページの DX の意味合いを教えてください。
- （生涯学習課長）デジタルトランスフォーメーションの略称であり、国や市のほうでもデジタル技術を活用して、市民サービスを向上していこうとする取組であることから、スポーツにおいても何かできないかということで、記載しているところである。
- ・（新沼良治会長）24 ページの部分もよろしいということで了承とする。
- ・（渡邊千鶴委員）27 ページの大船渡アスリート応援団について、私はこの審議会に参加して知ったのだが、先日トライアスロンの寺澤光介さんが公認アスリートになったのは、新聞で初めて知ったのだが、これもラインとか SNS の活用も考えられるところで、大船渡市は何を使って発信していて、どれだけのフォロワー数があるのか、教えていただきたい。
- （協働まちづくり部長）アスリート応援団については、X：旧ツイッターを使用して令和3年度から発信している。フォロワー数は、775 人となっている。市の公式ラインの使用については、全庁的に全課が課の業務やイベント、災害等の情報発信に使用しており、アスリートの活躍記事を発信するには、市の公式ラインではなじまないところがあって X を利用している。皆さんにも X の活用をお願いしたい。
- ・（渡邊千鶴委員）やはりラインが広報とかも送られてくるので、年配の方々でもライ

インの利用があること聞いているところでの話である。

- ・（新沼良治会長）29 ページまでよろしいということでした承とする。
- ・（新沼良治会長）学校開放施設の利用状況はいかがなものか。
- （生涯学習課長）市のスポーツ施設が少ないので、学校開放体育施設も有効に利用していこうということで取り組んでいる。16 ページに利用状況について、実績を掲載している。コロナ禍で一旦落ち込んだが、今は回復傾向にある状況であるが、過去を含め長期的に見ると減少傾向が続いているところである。
- ・（新沼良治会長）私は立根小学校の近隣で、比較的よく夜は使っているところを見ていた。
- ・（東芳江委員）令和4年度までの資料が記載されているが、先日来、別の会議で令和10年の中学生の数ということで、その数値がかなり減少していて、その中でも、もっとも大船渡市としても、先ほどから話している障がい者、高齢者の方々、子供たちと一緒にした総合型のものを考えていただけないかと、教室だったり体験だったり講演だったりというふうなもので、20 ページを見ると、全体的には全国平均を上回っているが、例えば長座体前屈だとか、全ての年代で全国平均を下回っている部分だとか、それはなぜかなという部分も、下には書いてあるが、それ以外のものも何かあるのではないかと、いう部分だったり、③高齢者・障がい者スポーツの推進で、スポーツから疎遠になりがちな障がい者の方々を書いてあるが、これは高齢者、障がい者だけではなく、子供たちにも当てはまる言葉だと思う。それで子供たちと高齢者、障がい者の方々との交流とか体験だったりとか、何かを通じて、もっともっと交流させていったらどうなのかなと、そういう企画も考えていったらいいのではないかなと思うがいかがか。
- （生涯学習課長）これまで取り組んできたロードレースだとか、ポートサイドバレーとか、長年定着してきた事業を大事にしながら、今委員がおっしゃる新たな事業についても、企画検討していきたい。
- ・（新沼良治会長）活動機会と場所の提供というところでお願ひする。
- ・（新沼良治会長）意見等は出尽くしたようですので、第1号議案は了承とする。

第2号 大船渡市スポーツ施設整備基本計画中間見直し（案）について

事務局より、資料2のとおり説明した。

〈結論〉

原案のとおり了承した。

〈意見・質疑応答〉

- ・（新沼良治会長）第2号議案は、市民体育館とテニスコートと市営球場の3点に分けて質疑等を進行することとする。
- ・（東芳江委員）市民体育館、整備しながらということだが、いろんな大会で市外他県から利用者が来ているので、そんな方々が他の体育館と比較して、大船渡の酷さを口にしているのを聞いており、これが参加人数が減っていく原因にもなってくると思う。整備にはお金がかかり、最終的にはお金だと思うが、市も厳しい財源という中で、せめてその人たちからの利用後の感想もスポ協には届いていると思うので、その中の一個ずつでも解決してあげたいと思う。例えばシャワールームがないとか、トイレなんかも簡易トイレをつけてあげるとか、更衣室がないとか、荷物置き場もなく、スポ進だったりどなたかが担当になって、その時間帯を荷物守りをやるような形になったりして、今時ではない施設のようなところが見受けられるので、本当に何度も言うようだが、予算

がない中でも、後々のことを考えれば、もっともっと大船渡に来訪してもらって経済効果も狙っているところなので、そういうところももうちょっと吟味してもらえればと思う。

→（生涯学習課長）現施設について、まず設計が古いということで、その間、公共施設の作り方、市民体育館もそうだが、いろんなサービスとか、社会情勢が変わって、いろんなことを我慢している現状については、委員おっしゃるとおりである。観客席についても、長年の課題であったものと認識している。今まで蓄積してきたご要望についても、新しい施設整備の中で取り入れて時代に合ったもの、要請に合ったものを整備に向けて検討していきたい。現施設については適正な維持管理、先ほど雨漏りの件もあったが、まずは長持ちさせるように、最小の経費で効果を出せるように、そこは引き続き現施設を長寿命化していきたい。

・（谷山誠志委員）市営球場を含めてだが、市民体育館は今の形で直しながら整備していくという解釈でよろしいか。

→（生涯学習課長）当面は現施設を長寿命化して使うのだが、耐用年数もあるので、それを目途に建て替え再整備を目指すというところである。

・（谷山誠志委員）市民ニーズとか書いているが、実際ニーズに応えられるのか。今の施設を直したとしても、もっと新しい大きなものを作らないと、応えられないのではないか。

→（協働まちづくり部長）委員のおっしゃることはごもっともで、今課長が説明したとおり、60年の耐用年数まで残り15年あるので、その中で維持しながらも、市民ニーズに応えることも踏まえて、新たな体育館の整備について検討していくと、担当部署とすれば、当然に新たに建て替えるべきとの考えもあるが、そこに至るには、市全体の財源を考慮した内部調整もあるし、例えば末中と大中が統合した際には、大中校舎の改築とかも出てくる。当然学校教育のほうが優先されることが考えられるし、市の他の事業との兼ね合いでの優先順位もある。その点もご理解をいただいた上で、こちらとしても耐用年数を見据えつつ、新たな施設の整備を目指して、取組を進めていきたい。今の施設を改修しても市民ニーズに応えられないのはそのとおりで、この資料の中でも謳っているので、その辺はいろいろご意見を踏まえながら、計画の中で整備していきたい。ただ今の段階では、やるやらない、いつやる、そこら辺の踏み込んだことは、これからの検討になるので、とりあえず計画としてはこういう形でと考えている。

→（生涯学習課長）38ページが一つの例であるが、他市の施設を参考にして、(4)総合体育館として整備する場合の施設構成例ということで、こういうふうには調査した結果を挙げている。これはあくまで例であるので、あとは実際の事業費の確保、財源の確保によって変わってくるが、現在の検討調査結果については、このようにまとめたところである。

・（新沼良治会長）言いにくいことを言うことになるが、私は大船渡に戻ってから、13年目になるが、最初は大船渡に戻って感じたことは、スポーツ施設はみんな中途半端だということである。例えばスポーツの活性化だとか、大会の誘致だとか、やろうと思ってもなかなか難しいと、何年か前に卓球の東北大会をこの体育館で開催したことを聞いたが、それが何かというと、体育館には観客席がない、そういうところで、大会関係者は大会を開催したくないというのが本音にある。ただその時は、大船渡も被災地だったということを恐らく考慮した部分もあったかという感じがした。例えば、テニスコートにしても、5面あって観客席がない。今度の計画には観客席があるようだが、ときに私が言ったのは、増やすのであれば、事務室を田中島グラウンドのほうに持って行って、

観客席をつけたほうが良いということで、国や市のほうでも、見るスポーツ、するスポーツ等を謳っているが、見るという観点からすると、とても見るスポーツは考えられない。例えば事務室を移動させて、そこに観客席を作ったらどうかと言ったら、それは即座に難しいと言われたのだが、きちんとした建物を作るためには、そういうことも時には必要である。施設があるからできないではなくて、難しい話になるが、別な発想で物事を考えてみることも必要かと思う。当時言ったのは弓道場を移設できないかと、弓道場はあまり使われていないようなので、誰が使用しているかと伺ったら、大船渡高校の生徒だと、大船渡高校に弓道場はないのかと聞いたら、ある、ということは、ほとんど使われていないと思われる。壊す壊さないは別の話になるが、そういう発想を持って計画をしていったほうがいいのかないかなということで、野球場にしても同様である。当初震災後だったのか定かではないが、赤崎町に野球場を作る話があったように記憶している。ところが急にサッカー場になって、赤崎在住の方々はずいぶんご立腹だという話は聞いたが、それはそのとおりで、できるはずのものができなくて、別なものができて、結果的には今回の計画の中では、市営球場は長寿命化ということになると、やはり持って行き方が、長いスパンで物事が考えられていない。今回もこの資料を見て、そういう感じをしている。一体全体大船渡市のスポーツ施設は、いつになったら満足なものができるのか。口幅ったいが、そういう形で物事を考えていかないと、口ではスポーツ振興とかを謳っていても、これならやっていけるとか、子供たちも安心して預けられるとか、こういう施設にしたいとか、先ほど出た市民ニーズに込めているかということ、難しいのかなという感じはする。

- （生涯学習課長）今回、主要施設ということで、3つの施設を他の自治体を上回るものを全て整備するということは、財源的にも市の他の施策ができなくなるので、事業を絞って選択して、優先度を決めて進めるということが必要になる。市営球場について、今回、建て替え再整備から長寿命化にしたというのもそういった事情になる。市民体育館について、利用者数も市営球場より10倍くらい多いという状況、あるいは上屋があるので、避難施設、避難所として活用できるとか、様々考慮して優先度を定めていくということである。その整備の中で、今観客席が一面だという問題だとか、シャワー室とか更衣室だとかといった設備については、建て替え再整備の中で、解決を図っていくということで検討していきたい。
- ・ （新沼良治会長）そういうことを重々承知の上で、話をしているので、市民体育館を来年に作ってという話をしているわけではなく、作るのであれば計画的に進めていただきたいという話をしている。そういう中で、先ほどテニスコートの観客席のお話をしたけれども、新しいコートを3面作って、その両サイドに観客席を作る計画だというのは、市としては画期的だなとは思ったところで、一番いいのは管理棟、事務室を移設してそこにも観客席をとということを思ったのだが、観客席を新しいコートの両サイドにあれば、ずいぶんな進歩だなというふうに思った。体育館をすぐ作ってほしいというわけではなく、やはりいろいろと検討しながら、でも将来は作るぞという意気込みがほしいということである。というのは、競技人口が減ってきた、人口も当然減ってくる、もさもさしていると今いた競技人口がさらに減る。減ったからもう作らないという形になる考え方もないわけではない。野球人口が恐らくそうだと思うのだが、であれば作る予定のものも作らないでしまうという可能性もないわけではないのかなという心配もある。市営球場とテニスコートの意見は、次の進行の予定なので、話のついでということで、市営球場の話になるが、市営球場の視察については、委員で1回したことがあるのだが、この資料に目を通して、今朝、市営球場にも行ってきた。市営球場の整備をする場合に、

硬式野球ができる整備なのか、それともできない整備なのか、どちらか教えていただきたい。

- （生涯学習課長）現状では、そこまでの硬式野球に対応できるできないについては、まだ未定である。
- （協働まちづくり部長）想定しているのは、練習は今も大船渡高校がやったりしているので、例えば練習試合くらいはできたとしても、公式戦は難しいのかなと。軟式の公式戦がしっかりできる球場にしたいというふうに考えている。
- ・ （新沼良治会長）私はそうであれば、16億円はちょっと違うかなと思う。軟式ができる程度であれば、今のままでもできるかなというところである。硬式野球の公式戦をできるようにというのであれば、たぶん今の市営球場の場所では、無理だと思う。ネットを本当に高く作らないと、ボールが民家に飛び込む。それから、末中を統合することだが、ネットを少しぐらい高くしても、ファールボールは結構グラウンドに飛んでいくと思う。特にレフト方向のファール区域にも、ファールボールは結構行くと思う。そういうことを考えると、16億円かけての整備というのは、クエッションマークかなと。16億円かけるのであれば、その16億円を利用して、例えばできるかどうか分からないが、年度ごとに積み立てをしていって、きちんとした球場を作ったほうがいい。
- （協働まちづくり部長）16億円は、あくまで軟式野球のことを言ったが、今防球ネットをかさ上げする、照明設備を整備する、躯体が60年経過するので、躯体全体を整備する、フルに整備した場合ということで、そのぐらいかかるのではないかとの見積り額である。後に検討する中で、いるいらないの判断をしていけば、もう少し整備の事業費は落とせるかと考えている。今想定しているものが48ページにあるが、コンクリート躯体、スコアボード、防球ネット、照明設備、内外野の舗装、フェンス、クラブハウスの新設である。16億円は高いというようなご意見であるが、昨今の建築費の高騰をみると、やはりフルでやるとそのくらいにはなってしまうという概算見積りであったので、そのとおり記載しているところである。
- ・ （新沼良治会長）野球をやる子供たちの夢というのは、大体は高校野球で甲子園という形なのかなと思うが、例えば都市対抗、ここにも赤崎野球クラブとか住田クラブとかあるが、都市対抗辺りの地区予選、高校野球であれば、春秋の地区予選辺りは、宮古のほうかこちらか、どちらかでやと思う。野球関係は人口が少なくなってきたが、教育長を始め、多くの高校球児を輩出している部分もあるし、ちょっと捨てがたいかなという感じもしている。そういう中からやはり、例えば野球をやるなら市営球場でやりたいなとか、そういうことを抱かせることも一つの方法かなというふうに考えたりする。たたき台として私が今言ったことも検討していただければありがたいと思う。市に財源がないというのを重々承知で、だからこそ知恵を絞ったり、苦労したりする必要はあるのかなというふうに考えながら資料を見たところである。いずれ何とかして子供たちを始め、お年寄りまで、スポーツ振興が図られるといいのかなと思う。
- ・ （谷山誠志委員）私は野球スポ少の監督をして、40年になるが、市営球場で野球の大会がなぜできないのかというのは、ナイター設備がないからである。延長戦で夕方になってしまうと、暗くて試合ができなくなってしまうということで、うちのチームが県大会で第5試合になったりすると、陸前高田の球場を借りて、ナイターの練習をしていた。それから球場で、ダッグアウトの裏側にトイレがないところは、まずない。それでうちのチームが仙台で試合をしていた時に、仙台の球場にはダッグアウトの裏にトイレがあるのに、うちの子供たちは外野の端っこのトイレに行ってしまうと、試合の途中でいなくなってしまうことがあった。そういった他の球場にないといういろいろな問題が存

在している。それから今の現状だが、スポーツ少年団の指導者というのは、ほとんどが親であるから6年生が卒業すると、親も卒業してしまって、団員数が三分の一、最初（40年前）は一学年に27人いて、今は3、4人しか入ってこない。その親の中からコーチを探すというのは大変で、今は練習時間が夜のナイター練習で、親たちが来てからやっている。ほとんどの小学校がナイター練習で、市内小学校のナイター設備は非常に暗くて、ナイターでやれるというが、やれないのが現状で、球場にナイター設備がない、市内の小学校の施設では、暗すぎて練習にもならない、そういったことが現状としてある。計画では、長寿命化ということなので、その辺も含めて、考慮をお願いしたい。

→（生涯学習課長）48ページに検討の状況について記載しているが、(7)に改修箇所の候補に、主として、コンクリート躯体、ダッグアウトの辺りがかなり老朽化している。それからスコアボード、防球ネットに加えて、照明設備についても検討していきたいと考えている。技術的なものとか、地形、どのような照明設備を設置できるのかというのは、今後の検討調査の中で把握していきたい。今暗いというご指摘もいただいたので、その明るさの確保についても、そこを注意しながら、進めていきたいと思う。

・（新沼良治会長）市民体育館の話に戻って、雨漏りの件で修繕はできないものか。

→（協働まちづくり部長）雨漏りについては、スポーツ協会から随時連絡が来ていて把握している。ただ、修繕箇所の特定に至っていない。

・（栗村安弘委員）スポーツ協会でも何回も雨漏り先を調べたのだが、分からないとのことで、分からないというのは、その日の風向き、降水量によって、雨漏りする時もあるれば、しない時もあるということで、例えば、しとしと雨は雨漏りしないとか、降水量があっても風向きが東であれば大丈夫だが、南向きだと雨漏りするとかという話である。なので、特定をできかねるということで、今山岸部長から話があったとおりである。

→（協働まちづくり部長）原因が特定できない以上、ケースバイケースで対応して、利用者が滑って転ばないように、雨漏り箇所に侵入しないように、危険を避けられるように現状対応していて、実際に利用者に影響する場所は、アリーナの利用者には支障がないところで東側のステージ横の控室、廊下付近である。もし屋根の雨の進入元を特定し修繕するとなると、1億2億はかかることが予想される。将来的に建替え再整備を目指しているところで、現体育館に1億2億をかけて修繕するのかという話も出てくるので、バケツや雑巾での雨水処理対応と雨水エリアへの進入規制での対応を考えている。

・（東芳江委員）市民体育館の件で、大船渡市サンマカップというニュースポーツの卓球バレーというものが、身障者の方と健常者の方と一緒にやるのだが、それも今年で第4回、やはり身障者の方にしろ、県内外から来ていて、結構な参加人数があるので、できれば、身障者の方々にやさしい設備、すっきり直せということではなく、部分的にでももう少し段差の解消など配慮できないか。

→（生涯学習課長）これまでも少しずつ少しずつスロープを手作りで作ったり、古い設計の建物なので、そういう配慮が足りないところなので、工夫しながらやってきている。そういった何か改善点があれば、対応できる範囲で直しながら、当面はこの建物で進めていきたい。

・（新沼良治会長）市民体育館の件は、よろしいということで、次にテニスコートについての質疑をお願いする。

・（新沼良治会長）テニスコートで、今ある5面の補修は大丈夫か。

→（協働まちづくり部長）スポーツ協会より、現状の管理に問題はなく、大した傷みもなく、補修の必要はないことを確認している。

・（新沼良治会長）テニスコートについては、他に意見がないようなので、次に市営球

場についての質疑をお願いします。

- ・（谷山誠志委員）市営球場には、今までものすごくお金をかけてきたことは分かっている。土を何度も入れ替えたり、芝生を入れ替えたり、失敗しているのも何度も見ている。地下を這わせてスコアボードに電気を引いたら、接触不良になって、どこが接触不良か分からないから、また全部掘り返さなければならなくなって、外周を通したり、雨が降って、水捌けが悪くて、うちのチームが学童の岩手県大会の決勝戦を5回で打ち切って、6回と7回を末崎小学校でやって、その時に勝ったものだから、岩手日報とか野球協会に頭を下げて、何とか記事にしないでくれと、市営球場で終わったことにしてくれといったこともある。末崎町の周りの人たちというのは、この前大会で何か苦情があったということなのだが、ほとんどの人たちは、そういったことがないと思う。球場を末崎町に残すということになれば、末崎町の方々はほとんどが協力的だし、この辺の周りの方々も、駐車場に関して、駐車場には協力するという話を私はもらっている。駐車場をたくさん要するのは、開会式の時だけなので、あとは試合となれば、駐車場は広くなくてよいので、開会式の時に周りの方々の土地を提供していただければ、それは少々駐車場が少なくても、大丈夫なのではないかと思う。ただ、先ほども言ったが、ナイターだけ早めにつけてほしいと思う。
- ・（新沼良治会長）地形的にというお話が出たが、バックネット裏の辺りとか、なかなか工事をするのは、大変なのかなと、私はあそこで硬式野球をする場合を考えたが、やはり最終的には、厳しいかなと思った。軟式野球をするのであれば、あのままでも恐らく大丈夫かなと、例えば硬式野球をするのであれば、一つは一塁側も三塁側も観客席のネットの高さがぜんぜん足りないし、それからファールボールは、左右前後どこにでも飛んでいくし、そうすると駐車場辺りもちよっと危ないかと、外野も歩いて見てきたが、ライトポールの辺りは、力のあるバッターだと飛んでいくので、あの辺りの民家も危ないかと、それからライトの後ろは崖みたいになっていたが、直下に民家があったし、バックスクリーンはいいのだが、スコアボードを今はやりのものを建てるには、ギリギリいいのか悪いのかという段階であった。やはりファールボールが飛んでいかないようにするためにはということで、相当お金がかかるのかなと、地形的にということで、控室とか本部席とか作るのも難しいのかなというふうに見てきた。等々を考えると、16億円をストックしておいて、いくらかプラスして、作るのが遅れてもいいから、他の場所に作れないかなと思う。それから体育館を作るにしても、場所をどこに作るのかと、場所の問題でずっと見て大船渡は平地が少ないと、なので今までいろいろと苦労しているのかなと見てきた。猪川町長洞のともと運動公園を作る目標があったのであれば、土の持っていき場所がないということだが、もう一回なんとかならないのかなということで、時期が遅れても構わないので、検討しながらというふうと思う。
- （協働まちづくり部長）まずは、硬式野球の公式戦ができる球場となると、この計画の中にも試算をしているが、本体だけで約27億、今回建替え再整備から長寿命化に移行した理由というのは、一つは競技人口の減少、野球協会と話をした際に、球場がないから振興しないのだということをおっしゃっていたが、逆に27億をかけて、硬式野球の公式戦ができる球場を作って、どれだけという部分があるのかなというところで、例えば近隣の陸前高田、住田にはその球場があると、硬式野球の大会、利用がどのくらいあるのかは疑問なところで、軟式野球をできるようにすればそれでいいのではないかと、どうせ大会をやるにしても、一つだけでなく会場をいろいろと分散してやるということで、軟式野球がきちんとできる球場を整備するのが、まず適切ではないかという方向性に至ったので、今回、建替え再整備から大規模改修という形に詳細検討して、そういう

方向に内部の方針として決定したところである。また新しい球場を建てるとなると、市民体育館が今議論になったように、市民ニーズにできていない、老朽化しているということもあるので、あと15年もすれば市民体育館の議論も必ず出てくるので、そうすると、例えば野球場と市民体育館の両方を新たに建てるとするのは、今の現状とすれば、正直できないので、取捨選択の必要が出てくる。体育館のほうは建替え再整備を目指して、いろいろと検討を進めたいというふうなまとめにしたところなので、様々な競技をやる人によって、意見がいろいろとあると思うが、やはり市民ニーズや利用状況を踏まえると、体育館を優先せざるを得ないというところでのこちらの考え判断になった。会長は、時間をかけてもいいから新しい場所に球場を整理したほうがよいということだが、時間をかければかけるほど、今度は原資も足りなくなるし、先に体育館を作ってしまうと、球場にも手をつけられなくなるという判断になりかねないところもあるので、こういう方向性が今の段階でとりうるベストな選択ではないかというふうに協働まちづくり部としては、考えているところである。

- ・（新沼良治会長）さらに言わせてもらえば、硬式野球をできない球場にお金をかけるということは、バスケットボールでいえば、ゴールボードをガラスボードにするか、昔の木のボードにするかというようなものにお金をかけていくのは、もったいないなというわけである。何回も言うが、16億かけるなら、今のままでもということはあるが、せっかく16億かけるのであれば、違う方法がないのかというふうに考える。なので、検討事項にしてくださいというお願いである。このままというわけではなく、検討事項にお願いできればということである。
- （協働まちづくり部長）それを検討事項として計画に入れると、会長がおっしゃるように、球場の建替え再整備も一つの可能性として入れたほうがいいのかという部分のことかと思うのだが、入れるとなるといつまでも建替え再整備の議論が残ってしまうので、こちらとすれば、建替え再整備ではなく、長寿命化のほうに舵を切ってしまいたいということなので、そこを入れるとなると、いつまでも建替え再整備の可能性ということで、ずっと引っ張られてしまうので、建替え再整備はここでは一旦なしにしてしまうというのが、今回の見直し案の中身であるので、そこはご理解をいただきたい。
- ・（新沼良治会長）今回16億ほどかけて整備すると、恒久的に硬式野球の公式戦ができる球場は無理だと、そういう話なのだろうとは推測できるが、なので先ほど冒頭に言ったが、中途半端なものをたくさん作ってきて、最後はできないということなのかということである。そういうことに対して、計画的な、新しい体育館でも、これからどんどん少子化になるだろうし、今以上の体育館利用者が増えればいいのだが、同じ結果になってまた難しいなという結果にならないければいいなという、そういう心配をしている部分もある。最終的に無理なものは無理なのだろうと思うが、考える余地があるのであれば、知恵を出し合って、今までがそうだったので、そういう計画的に進めてくださいということを私は言いたい。
- （協働まちづくり部長）いろいろと知恵を出し合って、よりよい施設整備に取り組んでいきたい。
- ・（東芳江委員）先ほどの山岸部長のお話のとおり、正直私たちが想像するよりも、大船渡市の財政がかなり厳しいと思うところで、本当に本当に厳しい中で、いろいろとみんなで討論してのことだと思う。私たちが全国、県の大会に行ったときに、開会式ぐらいはいろいろな競技で、一か所に集まるが、でもその都度、近場に泊まって、次の日から会場に向かう、それがみんなバラバラで、1時間かかるころであったり、2時間かかるころであったり、みんなが移動して競技に参加するという現状だと思うので、や

はりこうやって大船渡市の近隣に、先ほど栗村委員がおっしゃるところ、高田、住田に硬式野球をできるところがあるので、そちらのほうも利用しながら、二市一町と一緒に考えながらとして、ただ高田は泊まる場所が少ないし、住田もそうだとすると、その分野は大船渡が引き受けての一番最初に言った飲食の経済効果を狙いながらの、連盟的には協力し合っていくということで、そこに本当にお金をかけて、16億だけではない、硬式野球となれば27億にもなるという話だったので、そこまではお金をかけなくても、いろいろなところを直しながらの現状をみんながやりやすいようにと考えながらにして、これで揉んでいいのではないかと思います。

- （生涯学習課長）ここが意見の分かれるところなのかなと、会長のおっしゃるところと、東委員のおっしゃるところで、どちらも市のためにお話になっているところだと思うのだが、それぞれの立場で意見が変わってくるところだと思う。市のほうから申し上げると、建替え再整備をすると計画しているものには、あまりお金はかけない。市営球場にナイター設備をつけるとか、そういった改修する場合だと、ある程度の年数は使用する前提で整備するということなので、ここは取捨選択なのだと思う。硬式野球ができるようなフル装備の野球場を作るとなると、今の施設への投資はできなくなるということで、悩みどころなのだろうと思う。この案では、現在ある末崎の市営球場をもたせて大切に使っていきたいという案でまとめさせていただいた。
- ・（新沼良治会長）3つの施設については、意見は出尽くしたということで、50ページ以降の朱書きしている部分についての意見をお願いします。
 - ・（新沼良治会長）それでは第2号議案についての意見は出尽くしたということで、これで了承されたこととする。次第3協議での私の進行を終わる。

4 その他

- ・（栗村安弘委員）冒頭の挨拶で山岸部長より忌憚のないご意見をということだったので、こういう意見交換はいいと思う。先ほど渡辺委員がおっしゃった管理人の件について、アンケート用紙がそれぞれの施設にあるというお話だったが、アンケート用紙の集約をして、市のほうに結果がまとめているのか。
- （生涯学習課長）提言箱といって木の箱が市役所にもあるし、主要な施設にある。それにご意見をいただくと、市の担当課があって、そこから内容の担当課に割り振られて、回答が必要なものはご本人に回答したり、あるいはHP、広報紙で、こういう意見が出たが対応をこうしたというものを周知している。
- ・（栗村安弘委員）管理人にこういう態度だったとか、こういうことを言われたとか、それはやはり、今出そうな芽を摘んでいることにつながっていることもあるわけで、そういうところも、管理人とその場にいる人たちも気をつけないといけないことなんだと思うと私は受け止めたので、アンケート用紙があって、その施設ごとで、何十件あったというのは、ある程度こういう場でもいいので、教えていただければありがたい。
- （生涯学習課長補佐）体育施設については、スポーツ協会の指定管理としているのだが、市のほうから指定管理者に対して、モニタリングということをやっている、その際に指定管理者のほうで、利用者アンケートなるものを行っている。その報告をもらって、それに対して市が評価するわけなのだが、その際に、利用者の細かな意見がこちらに届いている。

事務局から、令和6年度における以下の取組について報告。

- ・ デンソーテンレッドフェニックスバレーボール教室の開催報告
期日：令和6年5月3日（金・祝）／ 場所：大船渡市民体育館
- ・ 千葉ロッテマリーンズとのオフィシャルスポンサーシップ契約の締結について
契約権益 令和6年7月30日に大船渡市冠協賛試合の実施予定
今年度内の球団【チームロゴ】の名刺への利用
- ・ （協働まちづくり部長）長時間にわたり、本日の会議では活発なご意見をいただいたが、本来であれば令和5年度内に会議を設けたかったところで、特にスポーツ施設の関係でも市内でもいろいろと議論があって、なかなか方針として結論を出すに至らなくて、今の時期になってしまったが、いただいた意見を反映させながら、議会への説明、計画の完了まで取り組んでいきたい。

5 閉 会